

目指す学校像 大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。

重点目標 1 探究的な学びの充実を通じて、学習や諸活動に能動的に取り組もうとする生徒を育成する。
 2 校内の教育相談や生徒指導体制をさらに充実させ、ICT も効果的に活用しながら、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境を整える。
 3 情報発信を通して本校の魅力を地域に伝えるとともに、地域の教育資源を活用して教育のさらなる充実を図る。
 4 IB 教育に対する教職員間での共通認識を確立するとともに、教職員一人一人がより深く理解することで、より質の高い教育活動を実現する。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○多くの生徒が、授業やポートフォリオ検討会などで、受け手を意識した質の高いプレゼンテーションや資料作成ができています。しかし、総括的評価課題の評価結果では、内容等の質的な部分については、今後さらに発展させていく余地が見受けられる。 ○日頃の探究や個人の興味をベースに、社会や世界へと視野を広げ、生徒エイジェンシーを効果的に発揮する生徒が複数観られるようになった。一方で、自主的に探究を深めたり、能動的に社会貢献をしようとしたりする態度が弱い生徒も多い。	探究的な学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 3G Project において、4 年次の PP を最終目標として各学年の到達目標を設定し、より効果的な形成的評価を用いて生徒の探究活動を支援する。 各教科で、探究の要素を含んだ授業を意図的に取り入れ、生徒がより深く探究したり、他の活動に転移したりする機会を提供する。 生徒がより深く探究する時間を確保するために、総括的評価課題の数を前年度より 2 割削減するとともに、課題の実施時期の重複を調整できるようカリキュラムマップを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に対する学校評価アンケートにおける「アドバイザーによるアドバイス・フィードバック」に関する設問への肯定的な回答の割合が 90%以上 探究発表会や研究発表会などに参加した外部参観者アンケートによる肯定的な回答の割合が 90%以上 カリキュラムマップを作成・活用し、各教科で総括的課題の数を前年度比 2 割削減 				
		能動的に取り組もうとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ASA や長期休業中の生徒が活動できる環境を充実させる。 授業で取り組んだ内容をさらに深掘りし、探究の質を向上させるための「探究ワークショップ」を各教科で企画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の校外コンクール等への参加者数が全校生徒の半数以上 生徒企画のワークショップの実施数が年間 80 回以上 LDT を含むワークショップに生徒全員が最低 1 回は参加 				
2	○年間 3 回実施している、生徒の悩みについて把握するための「心と生活のアンケート」結果から、多くの生徒は学校生活に前向きに取り組んでいるが、人間関係や学習面に不安を抱える生徒もいる。	教育相談・生徒指導のさらなる充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部と学年担当との情報共有の機会を隔週設定し、緊密な連携と迅速かつ適切な対応を図る。 ICT を活用し、生徒情報の収集および分析をより効果的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒、長期欠席生徒に対する支援について、毎月 2 回以上専門家と交えて検討 教職員アンケートにおける「分掌（生徒指導部）と学年との情報共有・連携」及び「ICT の活用による効率的な情報収集および分析」に関わる項目それぞれに対する肯定的な回答割合を 90%以上 				
		すべての生徒が安心して学べる機会・環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> ICT 等も効果的に活用しながら、学びの自律と個別最適化を図る。 学校行事などを通じて異学年交流等の機会を多く設け、生徒が多様なコミュニティと関わったり、リーダー等様々な役割を経験したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおける「学習機会の確保・提供」及び「安心して所属できるコミュニティが複数あるか」という項目に対する肯定的な回答割合を 90%以上 				
3	○授業や課外活動において地元企業等と連携した取組が行われるようになってきているが、連携先に偏りがある。(2022 年度の実績より) ○学校の魅力を伝えるために学校行事等を通じて情報発信をしているが、事後アンケートの結果を見ると、本校の特長や魅力をさらに理解してもらう必要がある。	地域などの校外資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 分掌や各教科で、地域など校外の団体とのコラボレーション企画によって生徒の学習活動をさらに充実させる機会を意図的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域など校外の団体とのコラボレーション企画（講演型、体験型、協働型）の機会を年間 10 回以上 				
		地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや SNS、学校説明会を通して学校の魅力の発信を定期的に行う。 保護者や地域の人々が魅力を感じる学校行事を企画・運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを月 1 回発行し、学校 HP や SNS による情報発信を教員・生徒数の立場から週 3 回以上実施 学校行事に参加した外部参観者に対するアンケートの肯定的な回答の割合が 80%以上 				
4	○開校以来、各教科で、「探究学習」の授業実践についての研究と改善を積み重ねてきた。一方で、学校全体として、本校の探究学習の捉え方の統一が図れておらず、教科によって実践にも差があることが、年間 2 回実施している学校評価アンケートの結果から課題である。 ○IB ワークショップを継続的に実施し、転入教員や新入教員にも IB 教育についての理解を深める機会を設けている。一方で、IB 教育に対する理解・認識の深さに個人差があり、年々その差が広がりつつあるのが課題である。	教職員間の共通認識の確立	<ul style="list-style-type: none"> IB や探究学習に関する教科会を充実させる。 GRASPS の効果について生徒に説明し、それを活用したユニットプランナーの作成を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対する学校評価アンケートによる肯定的な意見の割合を 90%以上 ユニットプランナーを活用し、すべての教科と単元で GRASPS が設定されていることを確認 				
		IB 教育のより深い理解を目的とした校内外研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 他の IB 校をはじめとした先進校を視察する。 経験年数やニーズに応じた段階的な校内研修の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の研修参加者数の前年度比 10%増加 教職員に対する学校アンケートによる肯定的な意見の割合が 80%以上 				

学力向上に関する取組

安心・安全に関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教職員の資質向上に関する取組